

現代社会と子どもの発達

子どもは「勝手に育つ」のか？



・情報過多の現代社会

いろいろな種類の絵本やおもちゃ
テレビや動画など超高密度の情報
簡単に使えるスマホやインターネット

・学ぶ手段の多様化

ゲームやYoutubeで知識を得ることも

発達環境は昔より複雑で、完全にコントロールはできない！

この20年で変わったこと

<成長社会>

- ・1997年までの高度成長期
- ・みんな一緒の社会
- ・知識が役に立つ
- ・正解を当てる力が大切



<成熟社会>

- ・1998年にGoogle設立
- ・それぞれ一人ひとりの社会
- ・知識より感情に価値がある
- ・修正し続ける力が大切

子どもたちは長い一生の間、変化する社会で学び続ける！

これからの社会で何が必要か

- 1987年 バブル期に世界初の「携帯電話」が登場
- 1999年 E-mailサービス開始、カメラ付ケータイ販売開始
- 2008年 iphone3G発売開始（スマホの時代に）

「〇〇したい」「〇〇が好き」に応えるものが増えていく

例) Amazon メルカリ Youtube TicTok . . .

自分の「〇〇したい」がないと、スマホも宝の持ち腐れ！

中学校の教科学習

1. なぜ教科学習をするのか

- ・ モンドに通っているのは、学校や塾で学びづらい子。大なり小なり、失敗体験や自己肯定感の低下がある。それでも学校に通う限り教科学習は避けて通れないので、可能であれば「自分はこれで良いか」と思える程度までサポートしてあげたい。
- ・ 「高校には行って、卒業したい」というのも、ほとんどの親子の考え方。本人が嫌がっているのに無理に高校に行かせる必要はないが、高卒の方が何かと有利なのは事実。
- ・ 理科・社会・英語は、新しい知識(考え方や手順、文法など)を学ぶという意味では、大人になっても役立つ。国語・数学も同じだが、小学校からの積み重ねが大きいいため、少し別の考え方も必要。英語も、積み重ねという意味では少し特殊。

2. 中学教科書と学校進度

- ・ 守山・野洲・栗東・草津の公立学校は、すべて同じ教科書を使用。
滋賀学園は数学と地理のみ公立と違う。近江兄弟社は国語と理科のみ公立と同じ。
- ・ 各地域や私立校で使用する教科書は「教科書採択 滋賀」で検索すれば出てくる。
- ・ 各教科書の進度目安も「東京書籍 英語 年間指導計画」などで出てくる。

3. 中学卒業後の進路

- ・ 進路は、本人が自己選択することが何より大切(過信は禁物だが)。出席日数が足りていればテストが赤点でもフォローが入るので、「授業に出られるか」が勝負。
- ・ 県立入試は 44 校中 21 校で定員割れ(令和5年度入試)。年度ごとの振れ幅込みでも、500 点満点中 130~150 点(1教科25~30点)取れば高校は選べる。
- ・ 近江兄弟社の単位制(ヒューマンネイチャークラス)や通信制高校は、基本落ちない。
- ・ 高等養護学校は、一般就労できそうな子が対象(養護学校は福祉就労が 8~9 割)。県内では甲南・愛知・長浜北西の 3 校。7~8 月に事前相談。試験内容は小 4 程度。

4. 目標設定の目安

- ・ モンドの基本方針は、「とりあえずやってみて、自分の学び方を見つけてみよう」です。
- ・ 本人や保護者に寄り添う形で、中学卒業後の進路や高校入試に関連づけた動機付けをできると良い。また別の切り口として、「頼りがいがある先生」も安心できる要素の一つ。

【参考】 県立入試の傾向 ※やや古い情報なので過信は禁物!

国語：簡単。説明文の配点が 7 割程度で、他は漢字、文法、古文など。

数学：やや難。独立小問の配点が 4 割程度で、残りは思考力が必要。

社会：やや簡単。地理、歴史、公民の配点は均等。記述問題が多い。

理科：難しい。配点 25 点ずつの大問が 4 つ。大問ごとに実験や観察が示される。

英語：分布が幅広い。リスニング、長文、会話文(作文含む)の配点が3分の1ずつ。

算数・数学

1. 小学1～3年生

- ・ 数の三項関係。具体物(三個)、数詞(さん)、数字(3)の3つが同じ概念を示すこと。
- ・ 序数性・基数性。「1、2、3、…と連続している」「1と1が合わさって2になる」ということ。聴覚優位だと序数性(九九の暗唱など)、視覚優位だと基数性(九九表など)が得意に。
- ・ 量的感覚。10より大きい数、3つの数の計算、100までの数 / 長さ、かけ算 / 分数
- ・ 算数的概念。筆算いろいろ、ぼうグラフと表、時こくと時間、三角形と角、重さ(主に3年)

2. 小学4～6年生

- ・ 小4の壁(抽象概念)。角度、式と計算、垂直・平行、小数、面積、分数 など
- ・ 算数的手続き。倍とかけ算・わり算、筆算いろいろ、平均、単位量、割合、グラフ、速さ など
- ・ 小6の内容は、ほとんど全て中学でもそのまま出てくる。「中学準備」としてできると良い。
- ・ 学年ごとの詳しい学習内容は、Googleドライブの伊藤くんレジュメが分かりやすい。

3. 中学1～3年生

- ・ 計算 【1年】正負の数、文字の式 【2年】式の計算 【3年】展開と因数分解、平方根
- ・ 方程式 【1年】方程式 【2年】連立方程式 【3年】二次方程式
- ・ 関数 【1年】変化と対応(比例・反比例) 【2年】一次関数 【3年】関数 $y = ax^2$
- ・ 図形 【1年】平面・空間図形 【2年】図形の調べ方・性質 【3年】相似、円の性質、三平方
- ・ データ 【1年】データの活用 【2年】場合の数と確率、箱ひげ図 【3年】標本調査

4. 高校以降

- ・ 数学 I ※高卒認定試験の「数学」はコレ。100点満点中40～50点で合格。
 - 数と式 : 展開・因数分解、実数、1次不等式
 - 2次関数 : 2次関数のグラフ・値の変化・移動・最大・最小、2次方程式、2次不等式
 - 図形と計量 : 三角比、正弦定理・余弦定理
 - 集合と論理 : 集合、命題、証明法
 - データの分析 : 分散・標準偏差・散布図・相関係数・コンピュータの活用・表とグラフ
- ・ 数学 B ※文系で数Bまで取っていたら大学入試の武器になる。
 - 図形の性質 : 三角形、円、空間図形
 - 場合の数 : 集合の要素の個数、和の法則・積の法則、順列、組合せ
 - 確率 : 確率とその基本的な法則、独立な試行と確率、条件付き確率
 - 数学と人間の活動(新) : 約数と倍数、ユークリッドの互除法と二進法、座標、数学と文化
- ・ 社会的自立
 - 買い物、抽象化(計算) 書いて整理、仮説思考(方程式) 因果関係(関数)
 - 比較、デザイン、レイアウト(図形) 統計の理解、意思決定(データ) など

国語

1. 読み書きの基礎

色々な文字を覚える： 仮名と音を対応させる音韻認識、漢字の形をとらえる視覚認知 など

文をなめらかに読む： 語句のまとまりを判断する視覚認知、文を目で追う視機能・注意力 など

文の意味を理解する： 内容をイメージ・予測・修正する力、頭に留めるワーキングメモリ など

※ 日本語の文章では、表音文字(仮名)と表意文字(漢字)が混在。仮名文字の中にも、文字と音が一対一対応していない「特殊音節」がある。そのため文字の習得が難しく、特に視機能や注意に苦手がある場合は「逐次読み」「読み飛ばし」「言い換え」などが起こりやすくなる。

2. 小学国語 (学習指導要領)

1～2年： 自分の思いや考えを持つ

順序だてて考え、事物の内容や経験したことを伝える。共通・相違・順序などの関係を理解。

身近なことを表す語句、意味による分類 / 姿勢や口形、発声や発音 / 主語と述語

3～4年： 思いや考えをまとめる

筋道立てて考え、考えたことや思ったことを表す。考えの理由や事例、比較や分類を理解。

様子や行動、気持ちを表す語句、性質や役割による分類 / 抑揚や強弱、間の取り方

修飾と被修飾、指示語と接続語、段落 / メモ、引用の仕方

5～6年： 思いや考えを広げる

筋道立てて考え、相手とのつながりをつくる。原因と結果などの関係を理解。

思考に関わる語句 / 文の接続関係、話や文章の構成や展開 / 関係性を図などで表現

3. 中学国語 (各分野についての考え方)

漢字・語句： 興味関心から自然に学習したい。個人差が大きいのでゲームには使いにくい。

小説・随筆： 学習しても良い。どんな人物か、気持ちの探し方、気持ちの変化の探し方 など

説明・論説文： 学習しても良い。「それ」「これ」、「つまり」「しかし」、事実と意見と理由 など

文法、詩・短歌・俳句、古文・漢文： 必要ない。素材としてゲームに使えるなら使っても良い。

※ 中学国語の定期テストは「授業で扱った文章」が出るので、どちらかと言うと暗記科目に近い。

4. ころあつぷタイム

小4～小6対象のメンタルヘルス予防プログラム。ベースは認知行動療法とポジティブ心理学。

同支社大学が国立機関の助成を受け、プログラム開発から実装・人材育成まで研究している。

「場面」や「気持ちの種類・大きさ」の言語化・数値化が必要で、国語力の一つ基準になる。

ソーシャルスキル

1. SST での指導領域例

【集団参加行動領域】

- ルール理解・遵守スキル
- 役割遂行スキル
- 状況理解スキル

【言語的コミュニケーション領域】

- 聞き取りスキル (指示への注目、指示弁別、指示理解)
- 表現スキル (情報伝達、発表)
- 質問／回答スキル (情報収集、情報整理、情報収束)
- 話し合いスキル (意見開示、討論、意思決定)
- 会話スキル

【非言語的コミュニケーション領域】

- 表情認知スキル (顔への注目、表情変化への気づき、表情の読み取り)
- ジェスチャースキル (身体を使っての伝達、身体表現の読み取り)
- 身体感覚スキル (自己の身体像の意識化、他者の身体像の意識化)

【情緒的行動領域】

- 自己の感情理解スキル (自己の感情への注目、自己の感情の意識化・言語化)
- 他者の感情理解スキル (他者の感情への注目、他者の感情への対処)
- 共感スキル

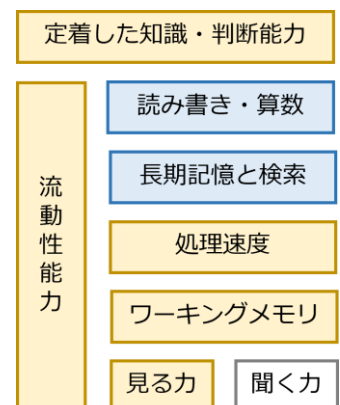
【自己・他者認知領域】

- 自己認知スキル (自己理解、自己評価)
- 他者認知スキル (対人意識、他者理解、他者評価)
- 自己-他者認知スキル (共通点、相違点の理解、グループへの評価)

2. 認知能力との関連

例) 指示を聞き取るスキルの習得に必要な能力

- ・ 認知能力を発揮する前提として、指示への注意力が必要
- ・ 聞く力を使って、音声情報を日本語として聞き取る
- ・ ワーキングメモリや知識(定型文の理解)を使って指示を弁別する
- ・ 読み書きの力を使って日頃の学習で言語理解を高める
- ・ 長期記憶と検索の力で、指示に含まれるキーワードを覚えておく
- ・ 流動性能力を使って「今その指示が持つ意味」を理解し行動する



社会人基礎力

1. 社会人基礎力とは

経済産業省が 2006 年に提唱した、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力。3つの能力、12の能力要素から構成されている。

【12の能力要素】

前に踏み出す力 : 主体性、実行力、働きかけ力

考え抜く力 : 課題発見力、計画力、創造力

チームで働く力 : 発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレス対応力

【考え方】

人生100年時代の働き手は、「アプリ」と「OS」を常に「アップデート」し続けることが大切

○ 社会人としての基盤能力(OS) : キャリア意識、マインド、社会人基礎力

○ 業界等の特性に応じた能力(アプリ) : 専門スキル、社内スキル

【現代的な切り口】

変化に前向きに対処する力(主体性)、やり切る力・チャレンジする力(実行力)

協業力・多様性を活かす対話力(働きかけ力)、感情を読み取る力(状況把握力) など

【各段階で必要な学び】

就学前 : 大人との触れ合い、他者との関わり、学びに向かう力

小中高 : 尊重し合いながらの協働生活、自分の良さや可能性の認識

高卒以降 : 年代・地域・文化を越えた関わり、得意・不得意をふまえて働くイメージ

新人社会人 : 多様な人との出会いと広い視野、学びの分野・広さ・深さの理解

2. 関連するモンドの方針

モンドでの学びの目的は、自分の好き嫌いや得意・不得意を知ること。

これは、誰もが大人になる過程で、勉強や遊び、仕事を通じて学ぶこと。

モンドに来る個性の強い子は、まわりより早く、大人になる準備をする。

